

巨大な都市 あの コンクリートに閉ざされ
た 壁の 遺産であろう

おまえは ひっきりなしに 真夜中の 静け
さを うち破った

いまや おまえたちに 残されたものは
電灯の下に 倒れたまま 疲れきった 臃腫
とした 精神だけではないか

時刻表の中で 監視される 粉々に砕かれた
肉体だけではないか

千葉の貧困は おまえたちの 遺産ではない
か

巨大な都市の 国籍のない 貧困を うち崩
すまでは

静かな朝を 待つことを 知らねばならず、
閑散とした街を 飾ることを 知らねばなら
ず、

華奢な顔を 整えることを 知らねばなら
ず、

夜中に 腹を空かせた子どもたちの 泣き声
を 聞くことを知らねばならず、

腹を空かせた乳飲児たちの 負った傷を 手
当てることを 知らねばならず、

巨大な都市の 貧困な おまえたちは、

おまえたちは みな 懐かしい土地に 夜明け

が訪れるまでは、

まるい 太陽の下で 国土の 花の下で
呻きではない 懐かしい土地の 平和を
痛い傷ではない 良き友の 幸福を

呻きではない 喜びの誕生の 知らせを
おまえたちは みな 懐かしい土地に 夜明け
が訪れるまでは、

乳飲児の 笑い声が響く その国で
美しく 美しく 懐かしの土地を 築くまでは、

千葉の貧困は

おまえたち みな の 遺産であることを 知
らねばならない。

凍死の前で

血の祭祀